情報連絡員報告総括表（令和8年8月期）

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・原材料、包装資材、物流費、エネルギー費、人件費等の上昇が続き、製造コストの増加が経営を圧迫する厳しい状況が続いている。全国的には醤油を含む調味料についても価格改定の動きが続いており、大手メーカーでは2026年9月納品分から醤油等の価格引上げが予定されるなど、価格転嫁の動きがみられる。県内事業者においても適正な価格転嫁が重要となっている。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・原材料の値上げが続く。 ・販売価格への転嫁が出来ていない。いつ出来るのか。 ・消費活動がにぶい。 ・企業の残業食がなくなっている。
	処理牛乳・乳飲料製造業	↘	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
繊維工業	ニット製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・コスト増に対応するため、販売・加工単価の値上げを進めるが、収益面価は改善されていない。 ・アパレル関連は依然として良くない状況で、先行きの不透明感が強い。 ・物流ではドライバー不足や運送コストUPが懸念材料。
	絹人繊織物製造業	↘	↗	→	↘	↘	↘	→	→	↘	・前月と状況は変化なし。相変わらず円安による諸物価の上昇が止まらない。消費者物価も上がっているが、企業物価の上昇率の方が高く企業の収益に影響が大きい。商品価格の値上げで収益を改善したいが価格弾力性が大きく、売上数量の減少も大きく予想され、収益改善に結びつくか苦慮している。
	綿・スフ織物業	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	→	→	・イラン戦争の影響で、製品輸出に支障をきたしており、受注量は不安定な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
木材・木製品	一般製材業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・昨年は、建築基準法改正前の駆け込み需要が3月に集中し、その後反動減が出た。これに対する反動増が今年4月から表れ、5月6月と3か月間続いているが、令和8年上半期の新設住宅着工戸数は、全国はプラスに対し富山県は10.6%減になった。 ・また、7月の新設住宅着工戸数については、全国8.2%増、県7.2%増でそれぞれ上昇した。 ・プレカット工場も前年の住宅建設が停滞した反動で稼働率は回復しているが、価格設定が難しいことから収益の確保が課題になっている。 ・ロシア材取扱木材関連事業者は、円安に加えロシア材産地の値上がりや国内需要の停滞などで、厳しい経営環境にある。 ・中小工務店は、石油関連製品などの資材調達の困難な状況は緩和されつつあるが、需要が伸びていないことから今後の見通しは厳しい。 ・スギ素材価格は、県内価格は低迷しているが全国価格が上昇し格差が広がる傾向にある。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・まだ売上には反映されていないが、見積依頼がかなり増えてきているので景気は上昇している感じがする。
印刷	印刷業	↗	→	→	→	↗	→	→	↘	↘	・10月予定で印刷用紙の新たな値上げ発表のアナウンスが用紙メーカーから発せられたが、末端への通告はこれからの模様。 ・経産省監修の印刷発注契約ガイド発行に伴い、県内の公需窓口16ヵ所へ配布、説明予定。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・令和8年8月の県全体の出荷数量は、38,110㎥で、前年同月比約83%と前年実績を下回った. ・地区別では、新川地区が前年同月比73.6%、富山地区が同97.2%、高岡地区が同82.0%、砺波地区が同71.8%と全地区が前年実績を下回った。
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	・特になし。
	骨材・石工品等製造業	↗	→	↗	→	→	→	→	→	→	・令和9年度骨材価格について、燃料費、電力費、材料費、設備の更新費、修繕費、部品の交換費、人件費等、骨材生産に係る費用の急激な上昇が続いており、令和9年度骨材価格を値上げすることに決定し、お客様には値上げがやむを得ないものであることをご理解いただくよう各得意先を訪問し説明することとしている。骨材需要については堅調な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
鉄鋼・金属	銑鉄鋳物製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	・人材確保に苦慮する企業が多い。 ・修繕費や労務費などの価格転嫁が十分に進んでいないため、収益の改善が難しい状況が続いている。また、一部の原料・資材では供給不足が解消されていない。
	銅・同合金鋳物製造業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・地金価格の高止まり長期化。
	アルミニウム製品製造業	→	→	↗	→	→	↘	↘	↘	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	↘	→	→	・8月はお盆休みがあり、操業度はやや落ちているが、事業環境・経営状況に特に大きな変化はなし。 ・8月7日（金）の落雷により団地内企業数件に被害が出た。（地下水汲み上げポンプが作動しなくなったのが1件、電話回線断線が1件、セキュリティシステム停止が2件。） 中には盆休み明け（17日）まで復旧工事されないものもあった。 ・8月27日（木）の大雨・落雷により停電となった企業が1社。契約保安管理業者に連絡し復旧。 ・8月5日（水）不当要求防止責任者講習（＠情報ビル）受講。（前任者からの責任者変更により選任時講習として受講）
	めっき加工業	↗	→	↗	↗	↗	→	→	↘	↗	・取引先の製造業の受注が回復傾向にあることから、めっき依頼が増加してきており、増加傾向。販売単価の値上げも要因となっている。増収要因から、収益状況も好転してきている。

一　般　機　器	金属工作機械製造業	↗	→	→	→	→	→	→	→	→	・○受注状況・・・・・対前年同月比120.73% ・受注状況は、前月より減少するも対前年同月比では増加。精密機械関連では、半導体製造装置、電子部品、産業用機械など、AI・データセンター関連の設備投資需要が追い風となっている。一方で、原材料・エネルギー価格、人件費、物流費などのコスト上昇や、海外情勢・為替の変動には引き続き注意が必要であると思われる。
	金属加工機械製造業	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	↗	・特になし。
	鋳鍛造金型・プレス金型製造業 製造業	→	→	→	→	↘	→	↘	→	→	・受注量の増えている企業が多いものの短期の加工物が多く有り、長期的に見ると不安定な状況が続いている。各企業の収支面については、相変わらず苦戦をしているのが現状である。
電　気　機　器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↗	↗	→	→	↗	→	↗	↗	↗	・半導体製造装置向け部品の受注は引き続き好調が続いている。 ・自動車向け部品は夏季休日の影響で若干の減少。 ・民生向け部品の受注は落ち着いて推移している。 ・中国のレアアース規制の影響でタングステンの価格高騰が続いている。
輸　送　機　器	自動車部分品・附属品製造業	↗	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆 器 製 造 業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	セメント卸売業	↘	→	→	→	→	→		→	→	・8月は前月同様天候に恵まれ、ダム関連工事・災関連法面工事等官需関連工事が本格的に稼働しているものの、進捗率は対前年同月比で81.5%と低調となった。主な要因は、利賀ダム工事の一部で袋セメントからバラセメントへ変更があり 、袋セメントの使用が減少したためである。今後もバラへの変更が見込まれており、数の下振れ要因となる可能性がある。一方、その他の工事は順調に受注がすすんでおり、8月の氷見市近隣の大雨災害に伴う復旧工事も、来月以降の売り上げ増加が期待される。
	非鉄金属製品卸売業	→	→	↗	↘	↘	↘		→	↘	・銅、アルミ、亜鉛、鉄、その他原材料のすべてが高騰、燃料費、副資材費、そして人件費と原価にかかるすべてが上昇している中、価格転嫁しても高岡銅器業界が製造するものは必需品ではないため需要が減るだけ。同じ用途であれば、他産地の異素材の商品にスイッチしてしまう。現状、需要は劇的に減っており、一つは高岡銅器である必然性のある商品の開発、もう一つは高騰した価格でも価値を認めて購入してくれる市場と販路を模索している。 ・高岡市民への高岡銅器のPRのため、高岡銅器業界関係者で8月2日に市内にあるブロンズ像を清掃した。イオンモール高岡の伝統工芸のイベントにも当会として出展。文鎮製作のワークショップを行い、高岡市民への高岡銅器のPRを行った。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売り上げが伸びず全体としては、依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↗	↗	→	↘	↘	↘		→	↘	・仕入価格の値上がりが続き、利益を圧迫している。値上げをするが、うまくいかず。介護施設の人手不足により材料の仕入れがレトルトに変わり売上が減少している。
	野菜・果実小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・8月の卸売市場は、入荷数量が103%、kg単価が101%で売上が105%となった。 ・8月の組合員の取扱高は、昨年対比98%であった。4～8月累計で昨年対比96%。
	家庭用電気機械器具小売業	→	→	→	→	↘	→		→	↘	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	↘	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・組合員（SS）をめぐる状況は、カーボンニュートラルの進展に伴うガソリン等の需要減が見込まれることや大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、基本的に経営環境が厳しい。6月中旬に米国とイラン間で戦闘終結に向けた覚書署名があり、いったん原油価格の下落が見られたが、その後、両国の衝突が再燃し、原油価格は反転上昇、先行きに不透明感がつきまとう状況が続いている。他方、国内では7月末に熊本地震が発生したほか、8月に千葉県、富山県及び石川県、福井県と相次いで水害に見舞われ、「最後の砦」としてのSSの重要性が再認識される機会となった。 ・県内では、引続き需要の回復感が弱く、また利用者の物価高による節約志向もあってか、ガソリン販売量は減少が続いている。 ・販売価格は、イラン情勢の緊迫化を受けて3月中旬に急騰したものの、国による緊急的激変緩和措置（いわゆるガソリン補助金）により下落し、その後、落ち着いている。8月24日現在、7月27日との比較で1Lあたりレギュラーガソリンが0.1円増、ハイオクガソリンが同額、軽油が0.2円増と、ほぼ横ばいとなっている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	スポーツ用品小売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		→	↘	・特になし。
	ショッピングセンター	→	→	→	↘	↘	→		→	↘	・売上高は昨年同等であるが、物価が上がっていることを考慮すると2～3%減と考える。消費者の節約志向がますます強まっている。
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・お盆ウイークを含め、昨年同時期に比べ人出は多かった。観光客・帰省客・夏休中の家族連れで飲食店が賑わっていた一方、宝飾店や洋服店等買回り品店への入店は少ない印象であった。
	商店街	↘	→	→	→	↘	→		→	↘	・大雨の影響で平日の通行量減。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	→		→	→	↘	→		→	↘	・特になし。
	飲食業	→		↗	→	→	→		→	→	・お盆期間中は忙しかったが、物価高の影響か週末のファミリー層が低迷。売上げ昨年同月比2.1%増。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・8月の自動車新車新規登録・届出台数（登録車と軽自動車の合計）は、多少の増減はあるものの、概ね前年並みである。 ・8月の豪雨により、当会会員事業場でも氷見市の一部で水没被害が出ている。

建設業	鉄骨・鉄筋工事業	→		↘	→	↘	↘		→	→	・地場中小物件は、相変わらず少なく見積も少ない。大型物件はプレスコラムの納期が長くなっているとのことで今後の出件を期待したい。一方で建設業の関係者からファブだけがゼネコンの指値に追随し、建設市況の足を引っ張っているとの報道があり、大変不名誉なことである。鋼材単価等の上昇も続いており鉄骨単価の底上げをすることが今後の課題である。
	一般土木建築工事業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・富山市上下水道局と水道工 や委託業務に関する意見交換会を開催し、発注者と受注者が共通理解することでより安全・効率よく施工出来るよう意思疎通を図った。（各単組においても） ・熱中症予防に各会員が現場で対策に苦慮しながらの施工が続いている。
	電気工事業	↗		↗	→	→	→		→	→	・公共事業、民間設備投資は順調、住宅着工は横ばい。 ・中東情勢の影響により、プラスチック製品の供給不足および電設資材の価格改定が今後も続く予定で価格転嫁が課題である。
運輸業	道路貨物運送業	→		→	→	↘	→		→	→	・軽油価格が前年同月比7～8円/L高となっていることから、収益は減少とした。
	道路貨物運送業	↘		→	→	↘	→		→	→	・ 物量は前年同月比98.4%と少し落込む。呉西地区の大雨の影響もある。 ・燃料価格は前年同月比＋6.6円/Lと高めだった。